

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2271101351		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームほのか 1F		
所在地	静岡県沼津市大岡905-6		
自己評価作成日	平成25年7月31日	評価結果市町村受理日	平成25年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2271101351-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2271101351-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年9月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な空間の中で、その人その人が気楽に自由に生活出来る様に努めています。また、ホーム内勉強会等を実施しています。地域の行事には積極的に参加しています。(清掃・防災訓練・組の忘・新年会、自治会のお祭りなど)利用者さま優先に生活ペースを送っています。ご家族様やご利用者様の要望を出来るだけ取り入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は自治会に入り、清掃活動・防災訓練に時には入居者と参加しています。地区のお祭りにもボランティアで協力しキャラバンメイトとして地域の活動に貢献しています。自治会長がホームだよりを組長さんに配布して下さり、ホームの様子を地域に伝えています。ホーム長と職員は入居者の人格を尊重し、ケアで問題があると指摘あっています。会議でも活発に意見交換ができていて、法人や事業所の委員会でも研修、スキルアップをしています。短い期間に看取りを体験し、問題点を明らかにし今後に生かしています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム入り口にあります。目に付くところに貼り共有しています。	前回の外部評価の見直しで指摘され、理念を変えるを話し合いをした結果、このままの理念が職員に浸透していることを再確認した。理念を念頭において実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々、笑顔で挨拶を心掛けています。また、散歩中などに出会った方と会話をしたりしています。	自治会長が協力的でほのか便りを配布してくれる。地域のまつりにボランティアで参加し、清掃や防災にも入居者と参加し交流している。近くの人が見学に来てくれ野菜の差し入れもある。散歩中、出会った人に挨拶する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度は運営推進会議を開き、地域の方を交えて話し合いを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録に残し、スタッフは情報を共有しています。ユニット会議でも話し合いの場を設けています。	推進委員の方は活発に意見やアイデアを言ってくれる。介護保険課、民生委員の参加は毎回は得られないが連絡をしている。不参加の家族には会議録を渡している。職員にも議事録を回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括さんとの関係はスムーズ。また、ボランティアさんもみえたりしています。	地域包括との連携は密で相談しやすい。包括主催のグループホーム連絡会で意見交換をしている。またキャラバンメイトとして年1回、福祉体験授業を利用し中学校で認知症サポーター養成講座を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておりません。時々、言葉の拘束では？と思うこともある。	新人研修・オリエンテーションで説明している。玄関の施錠はしない。線路が近いが、入居者が外出すると近所の人から教えてくれる。職員は、「それはしてはダメ」等スピーチロックを意識して、忙しくても返事をするなど気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事実はありませんが、ホーム勉強会や会議の中で話し合うこともある。		

静岡県(グループホームほのか 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別に必要なか話し合うときがある。今後研修等に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前から十分に説明し理解に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の中で話し浮きいています。会議には管理者と職員が同席しています。	11月の祭りの前に家族会を開催し、防災について話し合う予定。今年5・6・7・8・9月に看取りがあり、家族と話し合いの場を設けた。また、お便りには入居者の状態や説明文を添えた写真を送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員とのコミュニケーションを取り、意見を聞いてくれます。また、答えも一緒に出してくれています。	会社の方針で委員会があり、会議で意見ができる。職員面接は年1回あり、目標や意見を聴く機会としている。自分で考える習慣づけをめざしている。職員間の連携がとれなく事故が発生した際、ユニット会議で皆に考えてもらい、職員間でより声掛けや確認をするように取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間等が曖昧になっている所は労働環境が良いとは言えないのではと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や社外研修などに参加しています。研修で学んだ事をケアに活かしていく為ホームナイ勉強会や会議等で情報共有も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修にて他ホームの職員と交流する機会がある。また、ホーム同士の交流研修やヘルプに行く事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が困っている事、不安な事をしっかりと聞き、安心を確保する為の努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様の意見や要望を聞き、良い関係作りが出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態等を見極め、早めの対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中の会話や、料理等一緒に行ったり、利用者様一人ひとりの信頼関係を築けるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えるご家族様とは話す機会があるので良い関係が築けていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様ご本人様との会話の中で「〇〇へ行きたい」等、話をされる事も多く出来るだけ要望に応えています。	入居者の友人が訪れている。行きつけの美容院や歯医者へ行く人がいる。出かける機会を増やす為に散歩や買い物へ近くを利用し、声かけを積極的に行い馴染みの関係を作るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人がいるので自席の配置を考えたり、会話やレクには職員が間に入り支援しています。		

静岡県(グループホームほのか 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の時には相談にのっています。また、退所時には「何かあったらいつでも言ってくださいね」と一言添えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から本人の思いをくみ取るよう努めています。また、会議等で情報交換しています。	利用者から、買い物へ行きたいと希望があり、2日に1回、カートを押したり車椅子で薬局やコンビニに出掛ける等の支援をしている。その時に隣のカフェでコーヒーやパフェを食べたり、急にすしを食べたいとの思いには職員が多い時間帯に出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族様からの情報等をもとに、その人らしい生活の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事はご自分でやっていただいています。家事等、手伝っていただける事は一緒に行っています。また、日々のご本人の様子を見極めて接しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度のプラン見直し、半年に1度のモニタリングを行い、その都度カンファレンスを開いています。また、状態の変化のあった時は都度モニタリングしています。	全職員は法人のアセスメントやほのか独自のサービス計画書に記号をつけ、その理由を書き込んでいる。会議で意見が出せなくても気づきが記入しており、介護計画書の作成に参考になる。日常の本人と会話や家族から要望を聞いて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や支援日誌を共有し申し送りを徹底し情報交換・共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状態を把握し話し合いを持ち、その時々に応じたサービスが出来る様になっています。		

静岡県(グループホームほのか 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院や、スーパーなどへ行っています。今後とも本人様たちの望んでいる事に応えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者様は提携医の先生に往診していただいています。他科受診の方は、家族やスタッフが対応しています。また、状態等変化のある時は往診以外でも主治医に連絡し指示を仰いでいます。	他科受診は家族スタッフが最近の様子をメモで伝え、受診結果は口頭で伝えてもらう。今回連続しての看取りには電話で頻りに相談した。9月から家族の了解を得て、薬局と契約し薬の管理を一括委託している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が来ています。日々の状況を伝え相談があれば話をし適切な対処法等を教わっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は定期的に面会に行き、状態の把握・経過の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様から医療に関する意見書をもらっています。その際に話し、情報を共有しています。医療確認書は、個別のファイルにて職員誰もがみられるようにしています。	本人には入所時に終末期のあり方を聞いています。食事が取れなくなった時点で、家族と主治医、事業所で相談し、職員間で話し合い、電話で医療機関に助言を得て看取りを行っている。費用や対応についてはまだ課題がある。	続けて体験したので流れや対応は把握できたが、職員の精神的ケアには課題がある。今回の体験を活かして職員で意見交換をし次につなげていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあります。ホーム勉強会で緊急対応のシュミレーションをしたり落ち着いて対応出来る様にしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っています。また、防災委員は自己点検等も行っています。	訓練は年2回実施している。特養施設で火災訓練の見学をし、一週間以内に施設で行って報告書を提出した。地震発生時に避難所までの時間、状況想定訓練を行った。事業所を自治会の避難所として利用してはと提案した。消防署よりカーテン・暖簾・じゅうたんの防災を指示され変えた。備蓄もある。	施設の防災訓練に地域にお知らせをするが参加者がいない。地域に協力体制を構築することが課題です。また猛暑時や寒さ対策など夜間想定だけでなく他の訓練も大切なので、防災委員を中心に実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳・プライバシーに配慮した声掛け等する様に努めています。	呼び名は入居時本人、家族から聞き今までの生活と変わりなく口調に気をつけて呼ぶ。便りの写真は個人へはその人のみ、ほのかだよりには家族の許可を得ている。職員は勤務中お互いに入居者のいない所で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でその方の思いをくみ取り、ご自分で選択出来る様な声掛けに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションをとりながら気分や体調の把握。また、ご本人の希望に添った支援が出来る様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等に衣類の選択が出来る様にしています。また、ボランティアさんが入りリハビリメイクをされたりおしゃれへの意欲が持てるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に昼食作りや、おやつ作りをしています。片付け等も一緒に行っています。	献立は意見を出しあい当番が入居者と一緒に決めている。買い物も一緒にでかける。旬の物や彩に配慮し、入居者に味見してもらう。三時のおやつも手づくりで楽しんでいる。下膳は自然にしている。ノンアルコールビールを飲む人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は1日ずつチェックしています。摂取量の少ない方は声掛けをしたり、工夫して出来るだけ摂取していただけるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところまでご本人様にやっていたいただき、できない部分をお手伝いさせて頂いております。		

静岡県(グループホームほのか 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握の為、チェック表を活用しています。	入居時にリハビリパンツを使用していたが状況を家族に報告し本人に確認をとり布パンツに二人移行した。布パンツで心配の人にはパットを使用する。トイレを嫌がる人には無理強いしない。トイレ誘導はチェックシートを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や、オリゴ糖の活用、体操や散歩に行き運動しています。また医師や看護師に相談し指示をもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴できるように声掛けを工夫したりしています。また、時間等に関係なく入浴の希望があれば対応するように努めています。	洗い場は床暖房で、二人体制で対応するケースもある。希望があれば毎日、5時すぎでも対応している。拒否者にはタイミングをみながら誘う。歌を歌う人もいる。ゆず湯、入浴剤等使用する。シャワー浴者には体が温まるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自席にて傾眠されている方には声掛けをし自室ベッドにて休んでいただいております。夜間は個々に応じた照明・温度に気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用等、職員全員が理解するようにしています。また、誤薬等に気をつけています。ケース記録に状態等を記入する事で医師への相談もスムーズに行えております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で、役割を持ち生活していただいております。個々の好みは会話の中からくみ取って支援にあたっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩は出来るだけ行くように努めています。おやつ外出なんかもしています。	公園に散歩に出かけたり、近くのコンビニへ買い物に行く。何回かに分けて花見に行ったり買い物に出たときカフェに寄ったりする。入居者の要望で急に職員とおすしを食べに行ったりもする。誕生日に友達と外食をする人もいる。	



静岡県(グループホームほのか 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお小遣いはホームで管理しています。しかし、買い物へ出かけた際はご自分で支払いをしていただいたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけたり手紙を出したり、本人の希望に添えるように努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った物を取り入れています。利用者様と一緒に作成し季節感を取り入れている。また、温度や光など利用者様が不快な思いをされないように工夫しています。	居室は明るく清潔で、入居者にはこやかに会話していた。一階の窓から隣人に挨拶ができ、二階のベランダでは入居者がプランターで野菜を栽培している。収穫した物は食している。壁には季節感のある歌詞や作品が飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が好きな場所で過ごせるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し利用者様が居心地よく過ごせるようにしています。使い慣れた家具や食器類などを持ち込んでもらっています。	馴染みの物を持ち込んでと伝えるが、新しい物を持参する人が多い。仏壇や整理筆筒が置かれ、歌手のポスター、家族の写真、造花、敬老の日こどもから届いた便りが貼ってある。衣類や寝具は家族が交換に来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の確保に努めています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2271101351		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームほのか 2F		
所在地	静岡県沼津市大岡905-6		
自己評価作成日	平成25年7月31日	評価結果市町村受理日	平成25年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosvoCd=2271101351-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JigyosvoCd=2271101351-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年9月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な空間の中で、その人その人が気楽に自由に生活出来る様に努めています。また、ホーム内勉強会等を実施しています。地域の行事には積極的に参加しています。(清掃・防災訓練・組の忘・新年会、自治会のお祭りなど)利用者さま優先に生活ペースを送っています。ご家族様やご利用者様の要望を出来るだけ取り入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアー入り口に設置してある。理念のようにゆっくりと心地よい空間づくりをしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り等に参加しています。散歩や買い物等でご近所の方と会ったら挨拶や会話を心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域包括センターの方と認知症サポーター講座等を開き理解していただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の方やご家族様と行っています。行事報告や様々な意見交換を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括さんや、介護相談員さんとは協力関係を築けています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はしておりません。外へ行きたいときには一緒に行くようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連法についてホーム全体で学ぶ機会はまだないが個々に勉強し互いに注意しあい防止に努めています。		

静岡県(グループホームほのか 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修等に参加しホームナイ勉強会を開いていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の前からご本人やご家族から不安等を聞き、しっかりと説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、面会時に意見や要望を聞いています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や各委員会は情報を共有し全スタッフ話し合いの場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	親睦会を行ったりしています。管理者は話を聞いてくれて適切なアドバイスをくれます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修やホーム内勉強会があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム交流研修等で他事業所の方との交流を持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の前より本人やご家族の要望等を聞き極力実施しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等家族の方と会話し要望や相談等聞いている。管理者にも報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ早期に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力に合わせた手伝いをしていただくことで関係づくりは出来ていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議や納涼祭等の行事にて一緒に過ごせる機会を設けています。また、ご家族とスタッフもコミュニケーションの場となっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの行きつけの美容院や歯科などに行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者さま同士を一緒にのテーブルにし良好な関係作りを支援しています。孤立してしまいそうな利用者様にはレクリエーション等でスタッフが間に入り会話や関わりをもてるように支援しています。		

静岡県(グループホームほのか 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際の相談を聞いています。退所後、ご家族様より相談等あれば聞いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の本人の様子を観察し希望等あればスタッフは情報共有し反映しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より話を良く聞きサービスを提供しています。サービス提供後も本人の様子を見て変化等に気づけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションに努め、その日の体調や気分を察しご本人が出来るレクリエーション等を行っている。体調の優れないときは自室で休んで頂いたりしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度ユニット会議を開き、ケアカンファレンス、利用者さんのケアのあり方、家族からの要望等について話し合っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員がケース記録に個別に関わり方、本人の思い、言葉を記録しています。また、支援日誌にて日中・夜間の様子を記録し申し送る事で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の機能低下等あればその都度話しています。より良いサービスの提供を心掛けています。		

静岡県(グループホームほのか 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院・歯科・スーパー等、個別に利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の往診を週1回受けています。体調の変化等を報告し都度、指示を受けています。行きつけの病院がある方は家族やスタッフが対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が来ています。食事量や排便の有無、その他気づいた事や聞きたいことなど報告しその都度指示をもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会に伺い経過の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1年に1度医療確認書にてご家族やご本人の思いを確認しています。また、必要に応じてケアプラン提示の際にも話を聞いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策委員を設け利用者様の急変時・事故発生時に対応できるように勉強会を開いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な日中や夜間の想定訓練を行っています。近隣の方々と交流を持ち災害時に協力していただけるような関係づくりをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳・プライバシーを損なわないように気をつけあっているが、利用者さんによっては共に生活するものとして、くだけた言葉遣いをすることもあります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で「どうしたいですか?」「どちらが良いですか?」等、自己選択・自己決定できるような声掛けを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれに好きなことをしながら、ゆっくりと過ごしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え時や入浴時、本人の着たい洋服を選んだりしている。時々マニキュアを塗ったり楽しまれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を伺ったり一緒に台所に立って準備をしてもらっています。片付け等にも積極的に参加してもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食べた量を確認しています。水分量もチェック表を作り1日のトータルをみています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っています。本人のできない部分を仕上げ磨きしています。		



静岡県(グループホームほのか 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのADLに合わせ布の下着やリハビリパンツを使用しています。排泄の訴えの可能な方はトイレにお連れしています。出来るだけトイレで排泄できるように心掛けています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を飲んで頂いています。寒天を使用して料理を作ったりしています。また、入浴時に腹部マッサージを行う事もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を伺っています。2日に1回は入浴されています。3日以上入浴できない場合は清拭や足浴等を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠されている利用者様には、ソファーで休んでいただいたり自室ベッドにて休んでいただいています。夜間、時間が早くてもお疲れの様子が伺える方は早めに就寝していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬等のないように十分に気をつけ症状の変化ある時には主治医に相談し指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の出来る範囲内で役割を持って楽しく生活していただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けたり季節に応じて花見や紅葉狩り、イチゴ狩り等に出かけています。		

静岡県(グループホームほのか 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホームで管理しています。時々買い物へ行って自分のほしい物を選んでもらったり買い物をする場を提供しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に掃除等を行い清潔に過ごし易いようにしています。季節の物を作って飾ったりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置きくつろぐ場所を作っています。テーブル席も気の合った方を一緒にする等しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ってきてもらっています。好きな芸能人のポスターを飾ったりしている方もいます。本人のくつろげるようなお部屋を作っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆が助け合いやっています。無理のないように役割を持って行っています。		